

毎日新聞 2025 年 7 月 31 日

防衛局も把握せずに「日米合同訓練」 京都の基地で“異例の事態”

弾道ミサイルを探知・追尾する X バンドレーダーを配備した米軍経ヶ岬通信所（京丹後市丹後町）に関して防衛省が開催する第 42 回安全安心対策連絡会（安安連）が 31 日、同市役所丹後庁舎であった。

京丹後市は、市への連絡なしに 7 月に同基地で陸上自衛隊と米軍との日米合同訓練が行われたとして、事実関係の確認を求めた。これに対し、防衛省近畿中部防衛局は日米合同訓練の実施について同局も把握していなかったことを認め、「事実関係を調査して回答する」と表明した。地元住民からは「シビリアンコントロール（文民統制）が無視されている。日米の軍事組織が最前線で勝手に動いており、極めて危険」との声が上がっている。

同基地では、これまでも度々日米合同訓練が実施されてきたが、防衛省は事前に市と地元区に訓練内容を連絡してきた経緯がある。今回は所管する近畿中部防衛局も訓練の実施を把握していない、異例の事態となった。

同市の中西和義・副市長がこの日の安安連で、7 月 16 日に投稿された同基地のフェイスブックに陸上自衛隊第 7 普通科連隊（福知山市）と米軍の合同訓練の様子が紹介されていることを指摘し、「訓練は必ずしっかりと市と地元とに連絡してほしい」と求めた。

これに対し近畿中部防衛局は「大変ご迷惑をおかけした。今後は必ず市と地元には情報を提供する」としたが、「われわれは説明できる情報を持ち合わせていない」と答えた。

同基地のフェイスブックには「部隊実動訓練の一環として総合訓練を実施した。さまざまなシナリオから構成される総合訓練は、共同の防衛力としての成功に寄与します」などと投稿されていた。

こうした事態に、基地周辺住民は「防衛当局が何も知らされないままで最前線で日米合同訓練が実施されたことが一番の問題で、事態は深刻。防衛当局が把握しないで勝手に訓練することはシビリアンコントロール上あり得ない。事実関係を徹底的に調べ、公表してほしい」と話した。

訓練を目撃した基地近くの住民によると、訓練は 7 月 10 日に実施された。【塩田敏夫】

毎日新聞 2025 年 8 月 5 日＜丹波・丹後版＞

「文民統制踏みにじった」 日米合同訓練問題 住民、市に調査要求 京丹後 ／京都

弾道ミサイルを探知・追尾する X バンドレーダーを配備した米軍経ヶ岬通信所（京丹後市）で、防衛省近畿中部防衛局が把握せず、市にも連絡がないまま日米合同訓練が実施された問題で、基地周辺住民でつくる「米軍基地建設を憂う宇川有志の会」（増田光夫代表）と「米軍基地反対丹後連絡会」（藤原利昭代表）が 4 日、「文民統制を踏みにじる事態だ」として、中山泰市長に

対し市として事実経過を詳細に明らかにするよう求めた緊急の申し入れをした。

申し入れ書によると、市と近畿中部防衛局に連絡がないまま、7月10日に自衛隊と米軍の合同訓練が実施された。これは文民統制（国民の代表である政治家が軍事力をコントロールする）の原則を踏みにじるもので、いかなる理由を述べようとも許されず、現地の首長や防衛当局も把握しない中、「自衛隊と米軍が勝手に合同訓練をする事態は極めて深刻」と指摘した。

今回の合同訓練について「東アジアでの有事に際し、米軍の指揮下で自衛隊が出動するのではないかという懸念がまさに現実味を帯びる事態と言わざるを得ない。精華町の祝園弾薬庫、イージス艦を配備している海上自衛隊舞鶴基地、陸上自衛隊第7普通科連隊（福知山市）、米軍Xバンドレーダー基地という軍事施設が一体となって京都北部が先制攻撃の出撃基地となり、真っ先に報復攻撃の対象となる危険性が差し迫っている」とした。

そのうえで、(1) 今回の日米合同訓練について市として事実関係や経緯の詳細を明らかにする
(2) 今回の事態の問題点や課題を徹底的に洗い出し、二度とこうした事態が生じないよう市としての対策・対応を明らかにする (3) 今回の事態や米軍基地のあり方について幅広い市民との懇談・意見交換の場を早急に作る——を求めた。

市役所を訪れた増田代表は、米軍基地が配備される前年の2013年に防衛省が行った住民説明会を取り上げ、「防衛省の責任者は（訓練など）すべて事前に市民に知らせると約束した。その時出席した中山市長は“約束が守られない場合、基地撤去を申し出る”と表明した。今回はまさにそうした事態だ」と指摘した。藤原代表は「300万人が犠牲となった先の戦争を教訓に日本では文民統制の大原則ができたが、それを踏み越えてしまった。軍事が独走する前触れ。市は非常事態と認識し、事実関係を調査してほしい」と求めた。【塩田敏夫】